

(7) 情緒・行動上の問題（言語能力の発達遅延・障害）

①情緒・行動上の問題（言語能力の発達遅延・障害）

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、言語能力の発達遅延・障害に関する情緒・行動上の問題状況は、言語能力の発達遅延・障害に関する情緒・行動上の問題状況について、この項目は「評価対象外」が半数を超えたが、「疑いなし」は33.1%で、「確かに問題あり」が4.8%、「疑いあり」が3.1%、「やや疑いあり」が6.3%あり、これらを合計すると15.2%にもものぼった。

その他の情緒・行動上の問題よりも顕著な問題として考えられる。

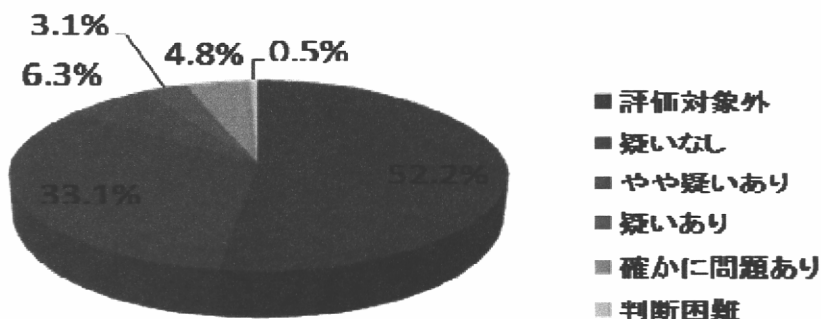


図 7-20 情緒・行動上の問題（言語能力の発達遅延・障害） n=2,764

②言語能力の発達遅延・障害による情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、言語能力の発達遅延・障害による情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し（割合）は、当該情緒・行動上の問題が「疑いなし」の場合、「家庭復帰の見込み有り」が22.8%、「当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中」が26.5%であった。

一方、「確かに問題あり」の場合は、「家庭復帰の見込み有り」が8.3%、「当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中」が70.5%であった。

言語能力の発達遅延・障害による情緒・行動上の問題が深刻なほど、家庭復帰の見通しが悪い可能性がある。

表 7-79 言語能力の発達遅延・障害による情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し n=2,663

	情緒・行動上の問題					
	評価対象外	疑いなし	やや疑いあり	疑いあり	確かに問題あり	判断困難
回答数	1436	908	172	85	132	15
家庭復帰の見込み有り	16.9%	22.8%	18.0%	8.2%	8.3%	13.3%
当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中	27.4%	26.5%	26.2%	28.2%	13.6%	33.3%
家庭復帰困難又は見込み無し	46.4%	45.0%	48.8%	60.0%	70.5%	40.0%
判断困難	9.3%	5.6%	7.0%	3.5%	7.6%	13.3%
$\chi^2=64.59***$	100%	100%	100%	100%	100%	100%

③言語能力の発達遅延・障害による情緒・行動上の問題別にみたケアの負担感

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、言語能力の発達遅延・障害による情緒・行動上の問題別にみたケアの負担感は、当該情緒・行動上の問題が「疑いなし」の場合、「変わらない」が67.0%、「かなり重いケア負担」が4.1%であった。一方、「確かに問題あり」の場合は、「変わらない」が7.9%、「かなり重いケア負担」が50.0%であった。

言語能力の発達遅延・障害による情緒・行動上の問題が深刻なほどケアの負担感が重い可能性があるといえる。

表 7-80 言語能力の発達遅延・障害による情緒・行動上の問題別にみたケアの負担感  
n=783

	評価対象外 回答数	情緒・行動上の問題				判断困難
		疑いなし	やや疑いあり	疑いあり	確かに問題あり	
	337	270	66	29	76	5
ケアの負担感						
変わらない	68.0%	67.0%	50.0%	31.0%	7.9%	20.0%
やや重いケア負担	24.9%	28.9%	42.4%	34.5%	42.1%	40.0%
かなり重いケア負担	7.1%	4.1%	7.6%	34.5%	50.0%	40.0%
$\chi^2=416.80***$	100%	100%	100%	100%	100%	100%

④言語能力の発達遅延・障害による情緒・行動上の問題別にみたケアの適合状況

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、言語能力の発達遅延・障害による情緒・行動上の問題別にみたケアの適合状況は、当該情緒・行動上の問題が「疑いなし」の場合、「適している」が80.4%、「適していない」が19.6%であった。一方、「確かに問題あり」の場合、「適している」が39.1%と少なく、「適していない」が60.9%と多かった。

言語能力の発達遅延・障害による情緒・行動上の問題が深刻になるとケアの適合状況が悪化する傾向にあると思われる。

表 7-81 言語能力の発達遅延・障害による情緒・行動上の問題別にみたケアの適合状況  
n=2731

	評価対象外 回答数	情緒・行動上の問題				判断困難
		疑いなし	やや疑いあり	疑いあり	確かに問題あり	
	1419	907	172	85	133	15
ケアの適合状況						
適している	90.4%	80.4%	77.9%	75.3%	39.1%	53.3%
適していない	9.6%	19.6%	22.1%	24.7%	60.9%	46.7%
$\chi^2=258.93***$	100%	100%	100%	100%	100%	100%

(8) 情緒・行動上の問題（知的障害）

①情緒・行動上の問題（知的障害）

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、知的障害に関する情緒・行動上の問題状況は、知的障害に関する情緒・行動上の問題状況について、この項目は「評価対象外」が大半であったが、「確かに問題あり」が3.1%、「疑いあり」が1.7%、「やや疑いあり」が3.5%あり、これらを合計すると8.3%となった。その他の情緒・行動上の問題では、やや顕著な問題として考えられる。

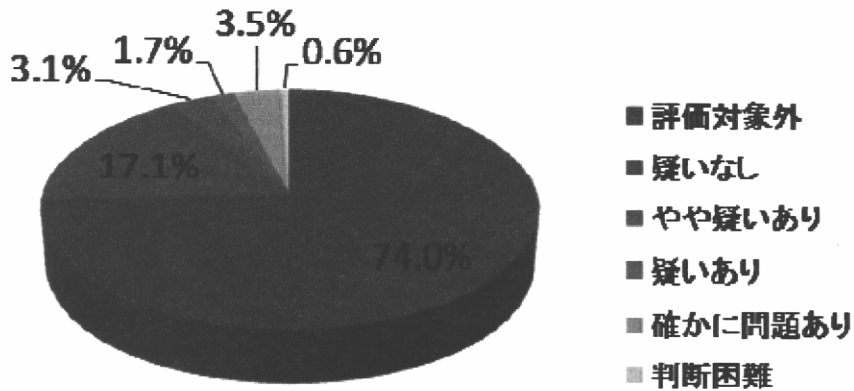


図 7-21 情緒・行動上の問題（知的障害） n=2,709

②知的障害による情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、知的障害による情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し（割合）は、当該情緒・行動上の問題が「疑いなし」の場合、「家庭復帰の見込み有り」が26.9%、「当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中」が27.8%であった。一方、「確かに問題あり」の場合は、「家庭復帰の見込み有り」が5.3%、「当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中」が12.8%であった。

知的障害による情緒・行動上の問題が深刻なほど、家庭復帰の見通しが悪い可能性がある。

表 7-83 知的障害による情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し n=2,695

	情緒・行動上の問題					
	評価対象外	疑いなし	やや疑いあり	疑いあり	確かに問題あり	判断困難
回答数	1994	461	83	46	94	17
家庭復帰の見込み有り	17.1%	26.9%	10.8%	8.7%	5.3%	35.3%
当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中	27.0%	27.8%	19.3%	34.8%	12.8%	29.4%
家庭復帰の見通し 家庭復帰困難又は見込み無し	47.4%	41.2%	61.4%	54.3%	73.4%	23.5%
判断困難	8.5%	4.1%	8.4%	2.2%	8.5%	11.8%
$\chi^2=81.20***$	100%	100%	100%	100%	100%	100%

③知的障害による情緒・行動上の問題別にみたケアの負担感

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、知的障害による情緒・行動上の問題別にみたケアの負担感は、当該情緒・行動上の問題が「疑いなし」の場合、「変わらない」が61.6%、「かなり重いケア負担」が6.6%であった。一方、「確かに問題あり」の場合は、「変わらない」が8.2%、「かなり重いケア負担」が50.8%であった。

知的障害による情緒・行動上の問題が深刻なほどケアの負担感が重い可能性があるといえる。

表 7-84 知的障害による情緒・行動上の問題別にみたケアの負担感 n=780

		情緒・行動上の問題					判断困難
		評価対象外	疑いなし	やや疑いあり	疑いあり	確かに問題あり	
回答数		504	151	34	25	61	5
ケアの負担感	変わらない	66.7%	61.6%	35.3%	36.0%	8.2%	60.0%
	やや重いケア負担	26.2%	31.8%	50.0%	40.0%	41.0%	20.0%
	かなり重いケア負担	7.1%	6.6%	14.7%	24.0%	50.8%	20.0%
$\chi^2=386.85***$		100%	100%	100%	100%	100%	100%

④知的障害による情緒・行動上の問題別にみたケアの適合状況

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、知的障害による情緒・行動上の問題別にみたケアの適合状況は、当該情緒・行動上の問題が「疑いなし」の場合、「適している」が79.0%、「適していない」が21.0%であった。一方、「確かに問題あり」の場合、「適している」が30.5%と少なく、「適していない」が69.5%と多かった。

知的障害による情緒・行動上の問題が深刻になるとケアの適合状況が悪化する傾向にあると思われる。

表 7-85 知的障害による情緒・行動上の問題別にみたケアの適合状況 n=2, 677

		情緒・行動上の問題					判断困難
		評価対象外	疑いなし	やや疑いあり	疑いあり	確かに問題あり	
回答数		1976	461	83	46	95	16
ケアの適合状況	適している	87.3%	79.0%	71.1%	63.0%	30.5%	68.8%
	適していない	12.7%	21.0%	28.9%	37.0%	69.5%	31.3%
$\chi^2=239.17***$		100%	100%	100%	100%	100%	100%



(9) 情緒・行動上の問題（施設内における他児へのいじめ）

①情緒・行動上の問題（施設内における他児へのいじめ）

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、施設内における他児へのいじめに関する情緒・行動上の問題状況は、施設内における他児へのいじめに関する情緒・行動上の問題状況について、この項目は「評価対象外」が大半であり、「確かに問題あり」、「疑いあり」、「やや疑いあり」を合計しても 0.8%であり 1%にも満たなかった。

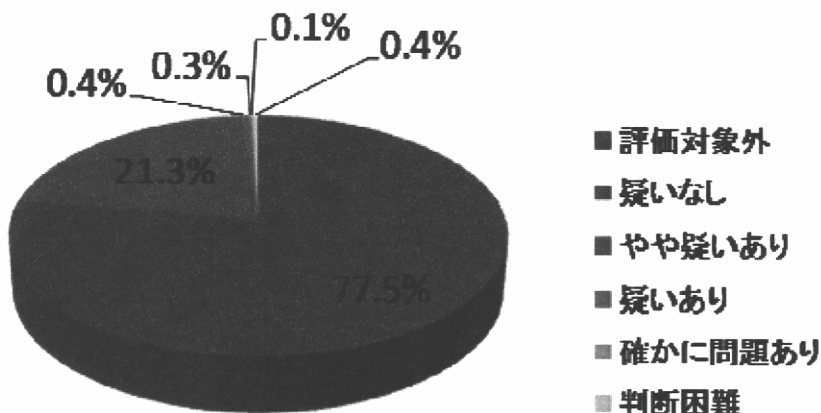


図 7-22 情緒・行動上の問題（施設内における他児へのいじめ） n=2,702

②他児へのいじめによる情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、他児へのいじめによる情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し（割合）は、当該情緒・行動上の問題が「疑いなし」の場合、「家庭復帰の見込み有り」が 22.9%、「当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中」が 24.5%であった。「確かに問題あり」の回答は 2 件、「疑いあり」の回答は 7 件しかなかった。

表 7-87 他児へのいじめによる情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し n=2,688

	情緒・行動上の問題						
	評価対象外	疑いなし	やや疑いあり	疑いあり	確かに問題あり	判断困難	
	回答数	2084	572	12	7	2	11
家庭復帰の見込み有り		16.8%	22.9%	16.7%	0.0%	0.0%	27.3%
当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中		27.0%	24.5%	50.0%	28.6%	0.0%	18.2%
家庭復帰の見通し 家庭復帰困難又は見込み無し		47.7%	47.7%	25.0%	71.4%	100.0%	45.5%
判断困難		8.4%	4.9%	8.3%	0.0%	0.0%	9.1%
$\chi^2=27.06^{**}$		100%	100%	100%	100%	100%	100%

③他児へのいじめによる情緒・行動上の問題別にみたケアの負担感

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、他児へのいじめによる情緒・行動上の問題別にみたケアの負担感は、当該情緒・行動上の問題が「疑いなし」の場合、「変わらない」が44.5%、「かなり重いケア負担」が16.1%であった。「確かに問題あり」のケースは1件、「疑いあり」のケースは5件しか存在しなかった。

表 7-88 他児へのいじめによる情緒・行動上の問題別にみたケアの負担感 n=777

		情緒・行動上の問題					判断困難
		評価対象外	疑いなし	やや疑いあり	疑いあり	確かに問題あり	
回答数		549	211	9	5	1	2
ケアの負担感	変わらない	65.6%	44.5%	33.3%	20.0%	0.0%	0.0%
	やや重いケア負担	26.4%	39.3%	22.2%	20.0%	100.0%	100.0%
	かなり重いケア負担	8.0%	16.1%	44.4%	60.0%	0.0%	0.0%
$\chi^2=142.81$		100%	100%	100%	100%	100%	100%

④他児へのいじめによる情緒・行動上の問題別にみたケアの適合状況

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、他児へのいじめによる情緒・行動上の問題別にみたケアの適合状況は、当該情緒・行動上の問題が「疑いなし」の場合、「適している」が73.1%、「適していない」が26.9%であった。

表 7-89 他児へのいじめによる情緒・行動上の問題別にみたケアの適合状況 n=2,677

		情緒・行動上の問題					判断困難
		評価対象外	疑いなし	やや疑いあり	疑いあり	確かに問題あり	
回答数		2067	572	12	7	2	10
ケアの適合状況	適している	86.4%	73.1%	33.3%	42.9%	50.0%	40.0%
	適していない	13.6%	26.9%	66.7%	57.1%	50.0%	60.0%
$\chi^2=99.85***$		100%	100%	100%	100%	100%	100%

(10) 情緒・行動上の問題（施設内における他児からのいじめ）

①情緒・行動上の問題（施設内における他児からのいじめ）

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、施設内における他児からのいじめに関する情緒・行動上の問題状況は、施設内における他児からのいじめに関する情緒・行動上の問題状況について、この項目は「評価対象外」が大半であり、「確かに問題あり」、「疑いあり」、「やや疑いあり」を合計しても0.4%であり極めて少なかった。

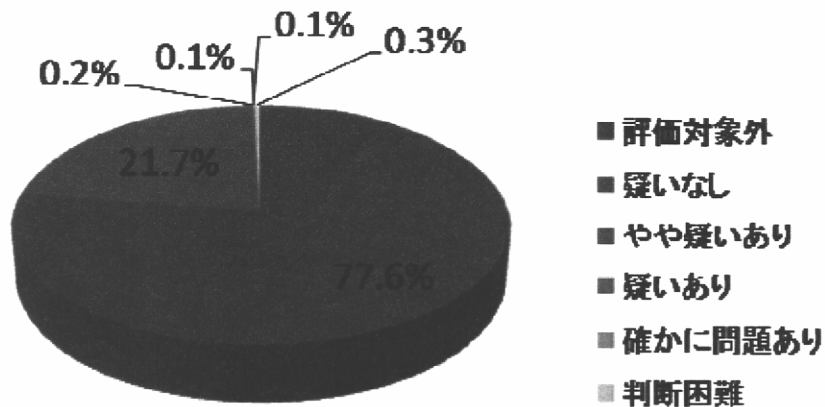


図 7-23 情緒・行動上の問題（施設内における他児からのいじめ） n=2,678

②他児からのいじめによる情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、他児からのいじめによる情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し（割合）は、当該情緒・行動上の問題が「疑いなし」の場合、「家庭復帰の見込み有り」が23.4%、「当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中」が24.9%、「家庭復帰困難又は見込み無し」が46.7%であった。「確かに問題あり」の回答は3件、「疑いあり」の回答は2件しかなかった。

表 7-91 他児からのいじめによる情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し n=2,688

	情緒・行動上の問題					
	評価対象外	疑いなし	やや疑いあり	疑いあり	確かに問題あり	判断困難
回答数	2066	578	6	2	3	9
家庭復帰の見込み有り	16.8%	23.4%	0.0%	0.0%	0.0%	22.2%
当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中	27.0%	24.9%	33.3%	0.0%	33.3%	33.3%
家庭復帰困難又は見込み無し	47.7%	46.7%	66.7%	50.0%	66.7%	44.4%
判断困難	8.4%	5.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%
$\chi^2=27.91^{**}$	100%	100%	100%	100%	100%	100%

③他児からのいじめによる情緒・行動上の問題別にみたケアの負担感

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、他児からのいじめによる情緒・行動上の問題別にみたケアの負担感は、当該情緒・行動上の問題が「疑いなし」の場合、「変わらない」が45.6%、「かなり重いケア負担」が16.7%であった。「確かに問題あり」のケースは3件、「疑いあり」のケースは1件しか存在しなかった。

表 7-92 他児からのいじめによる情緒・行動上の問題別にみたケアの負担感 n=773

		情緒・行動上の問題					判断困難
		評価対象外	疑いなし	やや疑いあり	疑いあり	確かに問題あり	
回答数		547	215	5	1	3	2
ケアの負担感	変わらない	65.3%	45.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	やや重いケア負担	26.9%	37.7%	40.0%	100.0%	33.3%	50.0%
	かなり重いケア負担	7.9%	16.7%	60.0%	0.0%	66.7%	50.0%
$\chi^2=156.53***$		100%	100%	100%	100%	100%	100%

④他児からのいじめによる情緒・行動上の問題別にみたケアの適合状況

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、他児からのいじめによる情緒・行動上の問題別にみたケアの適合状況は、当該情緒・行動上の問題が「疑いなし」の場合、「適している」が72.8%、「適していない」が27.2%であった。

表 7-93 他児からのいじめによる情緒・行動上の問題別にみたケアの適合状況 n=2,647

		情緒・行動上の問題					判断困難
		評価対象外	疑いなし	やや疑いあり	疑いあり	確かに問題あり	
回答数		2050	577	6	2	3	9
ケアの適合状況	適している	86.3%	72.8%	16.7%	50.0%	0.0%	44.4%
	適していない	13.7%	27.2%	83.3%	50.0%	100.0%	55.6%
$\chi^2=103.04***$		100%	100%	100%	100%	100%	100%

## (11) 情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し、ケアの負担感、適合状況についての考察

### ①情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し

情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通しについて、各問題が存在もしくは疑いがあると家庭復帰の見通しが悪くなる傾向があることがわかった。サンプル数が十分多いと思われる項目の中では、「注意欠陥・多動傾向」による情緒・行動上で「確かに問題あり」の場合は、「家庭復帰困難又は見込み無し」の割合が79.2%と高かった。また、「自閉的傾向」による情緒・行動上で「確かに問題あり」の場合も、「家庭復帰困難又は見込み無し」の割合が75.0%と高い傾向にあった。同様に「知的障害」による情緒・行動上の問題についても73.4%と高い傾向にあった。

### ②情緒・行動上の問題別にみたケアの負担感

情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通しについて、各問題が存在もしくは疑いがあるとケアの負担感が重くなる傾向があることがわかった。サンプル数が十分多いと思われる項目の中では、「注意欠陥・多動傾向」による情緒・行動上で「確かに問題あり」の場合は、「かなり重いケア負担」の割合が71.4%と高かった。また、「知的障害」による情緒・行動上で「確かに問題あり」の場合も、「かなり重いケア負担」の割合が50.8%と高い傾向にあった。同様に「言語能力の発達遅延・障害」による情緒・行動上の問題についても50.0%と高い傾向にあった。

### ③情緒・行動上の問題別にみたケアの適合状況

情緒・行動上の問題別にみたケアの適合状況について、各問題が存在もしくは疑いがあるとケアの適合状況が悪くなる傾向があることがわかった。サンプル数が十分多いと思われる項目の中では、「知的障害」による情緒・行動上で「確かに問題あり」の場合は、「適していない」の割合が69.5%と高かった。また、「注意欠陥・多動傾向」による情緒・行動上で「確かに問題あり」の場合も、「かなり重いケア負担」の割合が62.5%と高い傾向にあった。同様に「言語能力の発達遅延・障害」による情緒・行動上の問題についても60.9%と高い傾向にあった。

#### 4. 心身の状況からみた乳幼児

##### (1) 心身の状況（身体疾患・障害）の有無

###### ①心身の状況（身体疾患・障害）の有無

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、心身の状況（身体疾患・障害）の有無について、「有り」と回答した者は全体の32.6%、「無し」と回答した者は67.0%であった。このことから、全体のおよそ3分の1が何らかの身体疾患・障害を負っていることが確認できた。

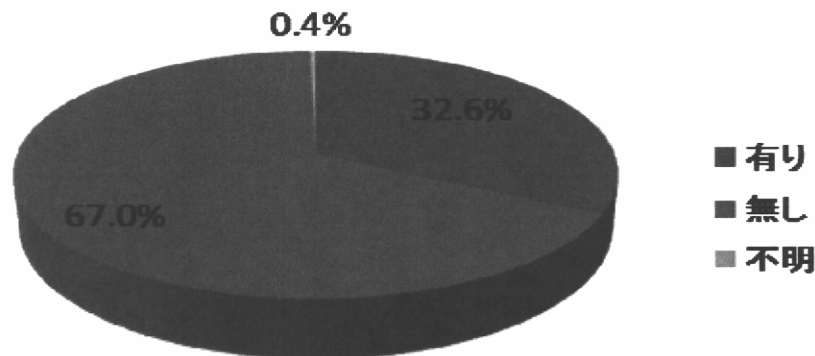


図 7-24 心身の状況（身体疾患・障害）の有無 n=2,642

###### ②心身の状況（身体疾患・障害）の有無でみた家庭復帰の見通し

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、心身の状況（身体疾患・障害）の有無でみた家庭復帰の見通し（割合）は、心身の状況における身体疾患・障害が「無し」の場合、「家庭復帰の見込み有り」が21.0%、「当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中」が26.4%であった。

一方、「有り」の場合は、「家庭復帰の見込み有り」が14.7%、「当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中」が25.5%と少なく、「家庭復帰困難又は見込み無し」が53.6%と多かった。心身の状況（身体疾患・障害）の問題があれば、家庭復帰の見通しが悪い傾向があった。

表 7-95 心身の状況（身体疾患・障害）の有無でみた家庭復帰の見通し n=2,626

	心身の状況(身体疾患・障害)有無		
	有り	無し	不明
回答数	856	1760	10
家庭復帰の見込み有り	14.7%	21.0%	10.0%
当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中	25.5%	26.4%	0.0%
家庭復帰困難又は見込み無し	53.6%	44.6%	90.0%
判断困難	6.2%	8.0%	0.0%
$\chi^2=32.08***$	100%	100%	100%

③心身の状況（身体疾患・障害）の有無でみたケアの負担感

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、心身の状況（身体疾患・障害）の有無でみたケアの負担感は、心身の状況について身体疾患・障害が「無し」の場合、「変わらない」が72.9%、「かなり思いケア負担」が6.3%であった。一方、「有り」の場合、「変わらない」が27.2%、「かなり思いケア負担」が34.5%であった。

身体疾患・障害が有る乳幼児については、ケアの負担感が重い傾向にあった。

表 7-96 心身の状況（身体疾患・障害）の有無でみたケアの負担感 n=521

		心身の状況（身体疾患・障害）有無		
		有り	無し	不明
回答数		232	288	1
ケアの負担感	変わらない	27.2%	72.9%	0.0%
	やや重いケア負担	38.4%	20.8%	100.0%
	かなり重いケア負担	34.5%	6.3%	0.0%
$\chi^2=177.88***$		100%	100%	100%

④心身の状況（身体疾患・障害）の有無でみたケアの適合状況

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、心身の状況（身体疾患・障害）の有無でみたケアの適合状況は、当該情緒・行動上の問題が「有り」の場合、「適している」が76.8%、「適していない」が23.2%であった。

一方、「無し」の場合、「適している」が89.6%、「適していない」が10.4%であった。身体疾患・障害が有る乳幼児については、ケアの適合状況が悪化する傾向があった。

表 7-97 心身の状況（身体疾患・障害）の有無にみたケアの適合状況 n=2, 608

		情緒・行動上の問題		
		有り	無し	不明
回答数		849	1749	10
ケアの適合状況	適している	76.8%	89.6%	0.0%
	適していない	23.2%	10.4%	100.0%
$\chi^2=131.03***$		100%	100%	100%

⑤心身の状況（身体疾患・障害）の診断結果

児童の身体疾患、身体障害の状況について医師の診断に基づいて回答した結果は以下の図表のとおりである。障害、疾患がある場合は、その名称を最大2つまで選択肢を選んだものである。

最も多かった身体疾患・障害は、「喘息」で全体の8.6%であった。続いて、「アトピー性皮膚炎」が6.8%、「耳鼻科・眼科の病気」が6.4%、「内臓系」が3.9%、「喘息以外のアレルギーの病気」が2.9%などであった。

身体障害系では、「視覚障害」が2.4%で最も多く、「言語・音声障害（ろうあ）」が1.9%、「聴覚障害（難聴）」が1.7%などとなった。ただいずれにしても3%未満で少ない数値であった。

表 7-98 身体疾患・障害 n=2,642

身体疾患・障害	回答数	割合
喘息	227	8.6%
アトピー性皮膚炎	180	6.8%
耳鼻科・眼科の病気	170	6.4%
内臓系	102	3.9%
喘息以外のアレルギーの病気	76	2.9%
アトピー以外の皮膚の病院	75	2.8%
肢体不自由	73	2.8%
外科系	66	2.5%
視覚障害	63	2.4%
言語・音声障害(ろうあ)	51	1.9%
聴覚障害(難聴)	44	1.7%
内部(内臓)障害	43	1.6%
泌尿器の病気	28	1.1%
免疫機能障害	6	0.2%
その他	312	11.8%



## (2) 心身の状況（精神障害）の有無

### ①心身の状況（精神障害）の有無

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、心身の状況（精神障害）の有無については、「有り」と回答した者は全体の13.3%、「無し」と回答した者は86.7%であった。このことから、全体のおよそ1割程度が何らかの精神障害を負っていることが確認できた。

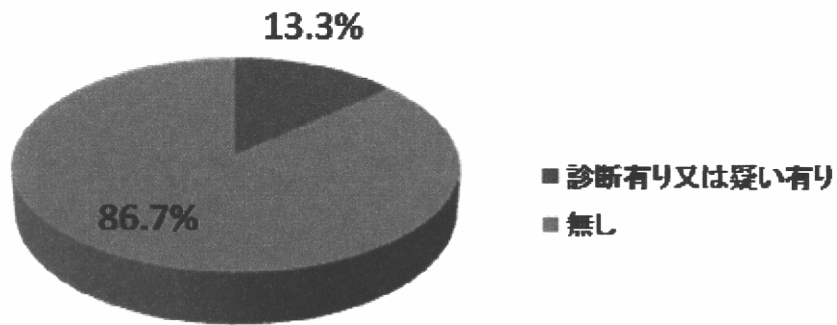


図 7-25 心身の状況（精神障害）の有無 n=2,935

### ②心身の状況（精神障害）の有無でみた家庭復帰の見通し

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、心身の状況（精神障害）の有無でみた家庭復帰の見通し（割合）において、精神障害が「無し」の場合、「家庭復帰の見込み有り」が20.1%、「当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中」が26.8%、「家庭復帰困難又は見込み無し」が45.4%であった。

一方、「有り」の場合は、「家庭復帰の見込み有り」が9.5%、「当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中」が23.0%と少なく、「家庭復帰困難又は見込み無し」が60.4%と多かった。心身の状況（精神障害）の問題があれば、家庭復帰の見通しはかなり悪い傾向があるといえる。

表 7-100 心身の状況（精神障害）の有無でみた家庭復帰の見通し n=2,918

	心身の状況(精神障害)有無	
	有り	無し
回答数	391	2527
家庭復帰の見込み有り	9.5%	20.1%
当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中	23.0%	26.8%
家庭復帰の見通し 家庭復帰困難又は見込み無し	60.4%	45.4%
判断困難	7.2%	7.8%
$\chi^2=38.52$	100%	100%

③心身の状況（精神障害）の有無でみたケアの負担感

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、心身の状況（精神障害）の有無でみたケアの負担感は、心身の状況について身体疾患・障害が「無し」の場合、「変わらない」が68.8%、「かなり思いケア負担」が5.3%であった。一方、「有り」の場合、「変わらない」が22.8%、「かなり思いケア負担」が32.7%であった。

精神障害が有る乳幼児については、ケアの負担感が重い傾向にあるといえる。

表 7-101 心身の状況（精神障害）の有無でみたケアの負担感 n=805

		心身の状況（精神障害）有無	
		有り	無し
回答数		202	603
	変わらない	22.8%	68.8%
ケアの負担感	やや重いケア負担	44.6%	25.9%
	かなり重いケア負担	32.7%	5.3%
$\chi^2=403.97***$		100%	100%

④心身の状況（精神障害）の有無でみたケアの適合状況

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、心身の状況（精神障害）の有無でみたケアの適合状況は、当該情緒・行動上の問題が「有り」の場合、「適している」が57.8%、「適していない」が42.2%であった。一方、「無し」の場合、「適している」が87.2%、「適していない」が12.8%であった。

精神障害が有る乳幼児については、ケアの適合状況が悪化する傾向にあると思える。

表 7-102 心身の状況（精神障害）の有無にみたケアの適合状況 n=2,901

		心身の状況（精神障害）有無	
		有り	無し
回答数		386	2515
ケアの適合状況	適している	57.8%	87.2%
	適していない	42.2%	12.8%
$\chi^2=208.09***$		100%	100%

⑤発達障害系の精神障害の状況

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、発達障害系の精神障害の状況について、「確定診断有り」と回答した者は全体の3.1%、「疑い有り」と回答した者は9.2%であった。「疑い有り」の数値を考慮すると、およそ1割程度の乳幼児について発達障害系の精神障害がある可能性がある。

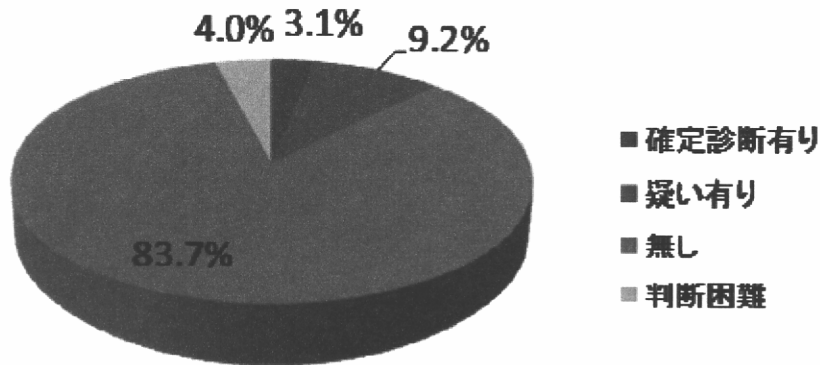


図 7-26 発達障害系の精神障害の状況 n=2,966

⑥行動障害系の精神障害の状況

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、行動障害系の精神障害の状況について、「確定診断有り」と回答した者は全体の0.4%にすぎず、「疑い有り」と回答した者も3.2%と少なかった。行動障害系の精神障害は、発達障害系の精神障害よりも少ない傾向が見られた。

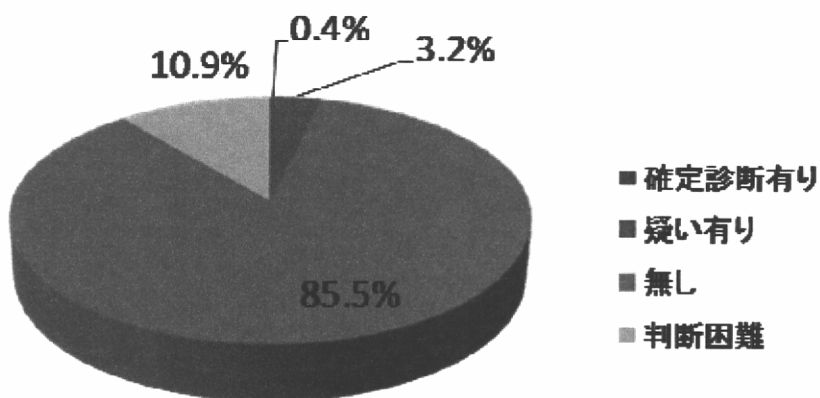


図 7-27 行動障害系の精神障害の状況 n=2,966

⑦不安障害系の精神障害の状況

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、不安障害系の精神障害の状況について、「確定診断有り」と回答した者は全体のわずか0.1%にすぎず、「疑い有り」と回答した者も2.5%と少なかった。不安障害系の精神障害は、発達障害系の精神障害、行動障害系の精神障害よりも少ない傾向が見られた。

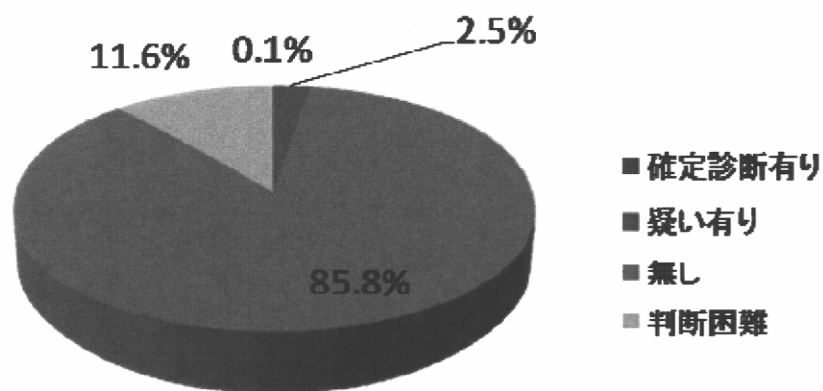


図 7-28 不安障害系の精神障害の状況 n=2,966

⑧気分障害系の精神障害の状況

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、気分障害系の精神障害の状況について、「確定診断有り」と回答した者は全体のわずか0.1%にすぎず、「疑い有り」と回答した者も1.6%と少なかった。

気分障害系の精神障害は、発達障害系、行動障害系、不安障害系の精神障害以上に少ない傾向が見られた。

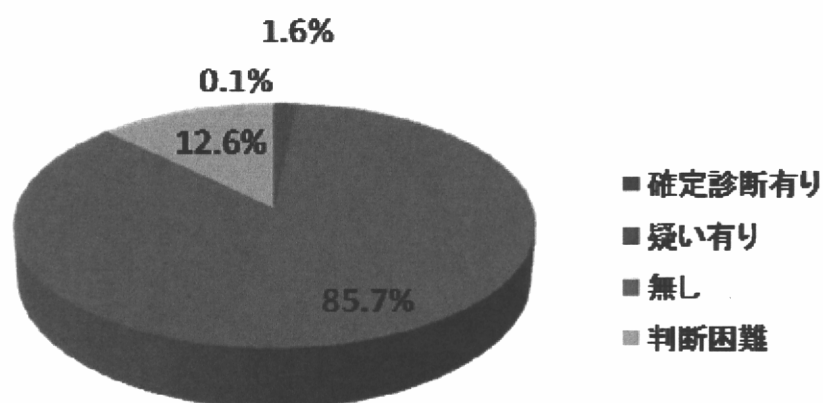


図 7-29 気分障害系の精神障害の状況 n=2,966

⑨その他精神障害系の精神障害の状況

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、その他精神障害系の精神障害の状況について、「確定診断有り」と回答した者は全体のわずか0.1%にすぎず、「疑い有り」と回答した者も0.9%と少なかった。

その他精神障害系の精神障害は、発達障害系、行動障害系、不安障害系、気分障害系の精神障害以上に少ない傾向が見られた。

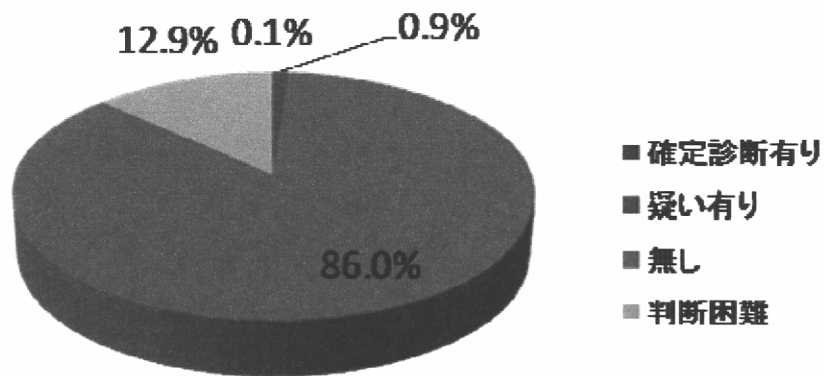


図 7-30 その他精神障害系の精神障害の状況 n=2,966

### (3) 身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者手帳の所持

#### ①身体障害者手帳の所持

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児の身体障害者手帳の所持の状況は、「1級」が全体の0.7%、「2級」が0.1%、「3級～6級」が0.5%、これらを合計すると1.3%となった。

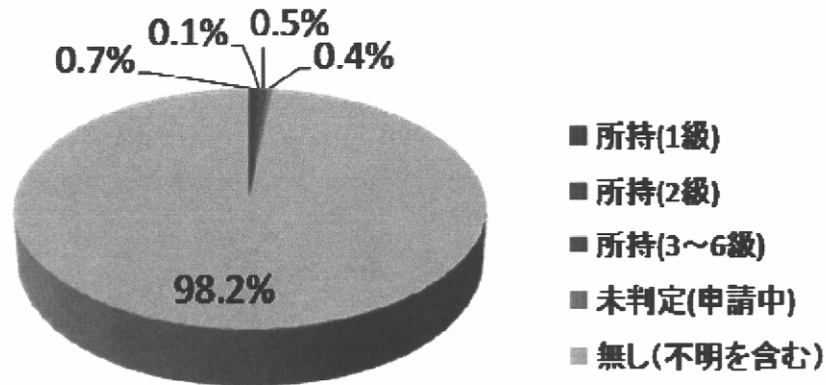


図 7-31 身体障害者手帳の所持（級別） n=2,865

#### ②療育手帳（知的障害者福祉手帳）の所持

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児の療育手帳（知的障害者福祉手帳）の所持の状況は、「1級」が全体の0.5%、「2級」が0.5%、「3級～6級」が0.4%、これらを合計すると1.4%となった。

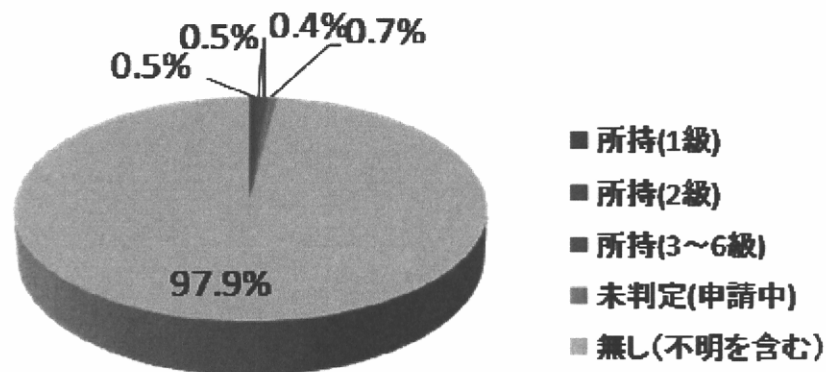


図 7-32 療育手帳（知的障害者福祉手帳）の所持（級別） n=2,864

### ③精神障害者手帳の所持

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児の精神障害者手帳の所持の状況は、「1級」は該当なし、「2級」はわずか1名で0.03%、「3級～6級」も該当はなく、極めて少数であった。

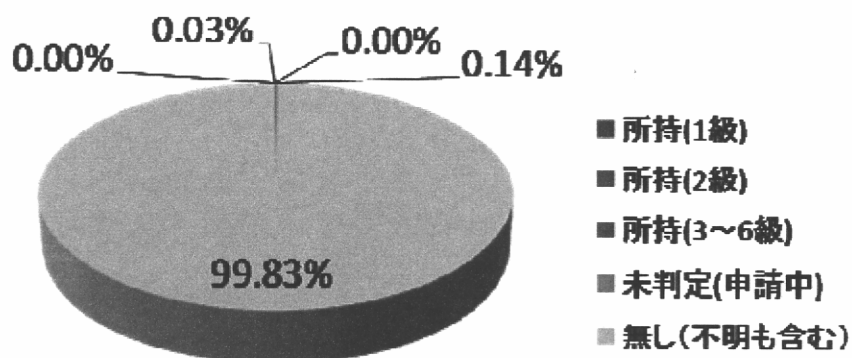


図 7-33 精神障害者手帳の所持（級別） n=2,862

#### (4) 精神科・心療内科の通院の有無

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児の精神科・心療内科の通院の有無の状況は、「有り」が全体の0.7%であった。

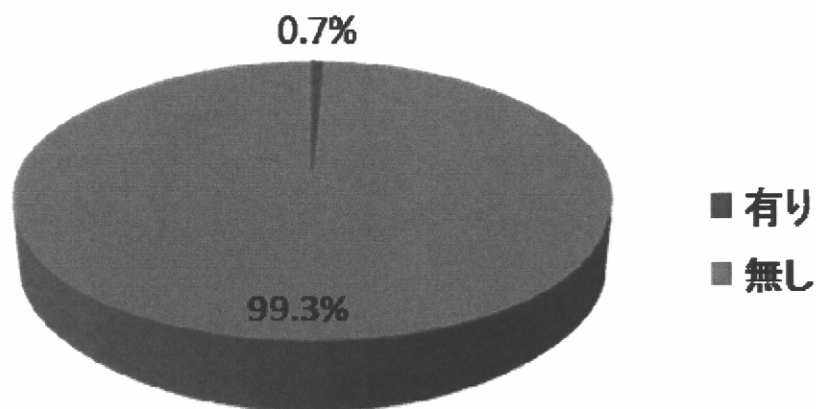


図 7-34 精神科・心療内科の通院の有無 n=2,876

#### (5) 精神科・心療内科での投薬の有無

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児の精神科・心療内科での投薬の有無の状況は、「有り」がわずか4名で全体の0.1%であった。

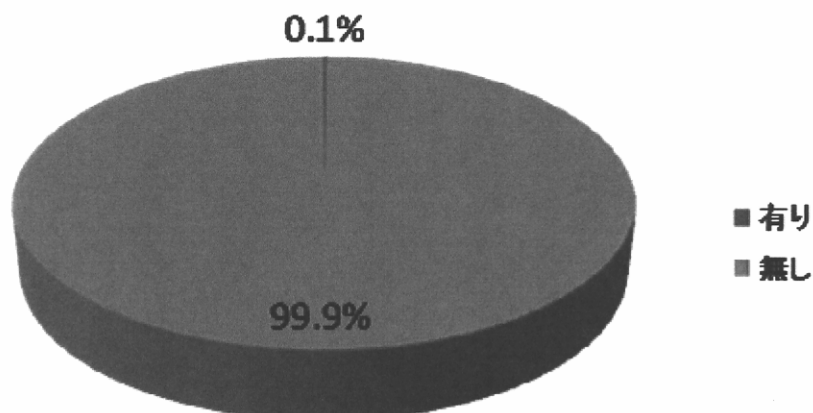


図 7-35 精神科・心療内科での投薬の有無 n=2,872